

## 御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）に引下げ＞

気象庁は、本日（26 日）17 時 00 分に火口周辺警報を発表して、御嶽山の噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げました。

御嶽山の火山活動は低下した状態が続いています。昨年（2014 年）10 月中旬以降、噴火は観測されていません。噴煙は噴火直後に比べて減少した状態で経過しています。火山性微動は 2014 年 12 月以降観測されていません。火山性地震は減少していますが、昨年 8 月以前の状態には戻っていません。地殻変動観測では、火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

一方、噴煙活動や地震活動が弱いながらも続いていることから、昨年 9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

## 【防災上の警戒事項等】

火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

## ○ 活動状況

## ・ 噴煙など表面現象の状況（図 2-①、図 3-①）

噴煙は昨年 9 月の噴火直後に比べて減少した状態で経過しています。

三岳黒沢及び鈴蘭高原に設置している遠望カメラ、中部地方整備局が滝越等に設置しているカメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上 100～500m で経過していますが、上空の風の弱いときには一時的に 1,000m を超えることがあります。

2014 年 10 月中旬以降、噴火は観測されていません。

## ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の状況（図 2-④）

2014 年 10 月下旬以降、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたりおよそ 100～300 トンとやや少ない状態で経過しています。

## ・ 地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3-②③、図 5）

火山性地震は、2014 年 11 月以降、1 日当たり数回から十数回とやや少ない状態で経過していますが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていません。

低周波地震は、2015 年 1 月以降、1 月に 3 回、2 月に 2 回、4 月に 1 回、5 月に 2 回観測しています。これらの地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていません。

火山性微動は 2014 年 11 月に 4 回観測されましたが、12 月以降観測されていません。

## ・ 地殻変動の状況（図 2-⑤、図 3-④～⑦、図 4）

傾斜計<sup>1)</sup> や GNSS<sup>2)</sup> 連続観測で、火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 マイクロラジアンは 1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

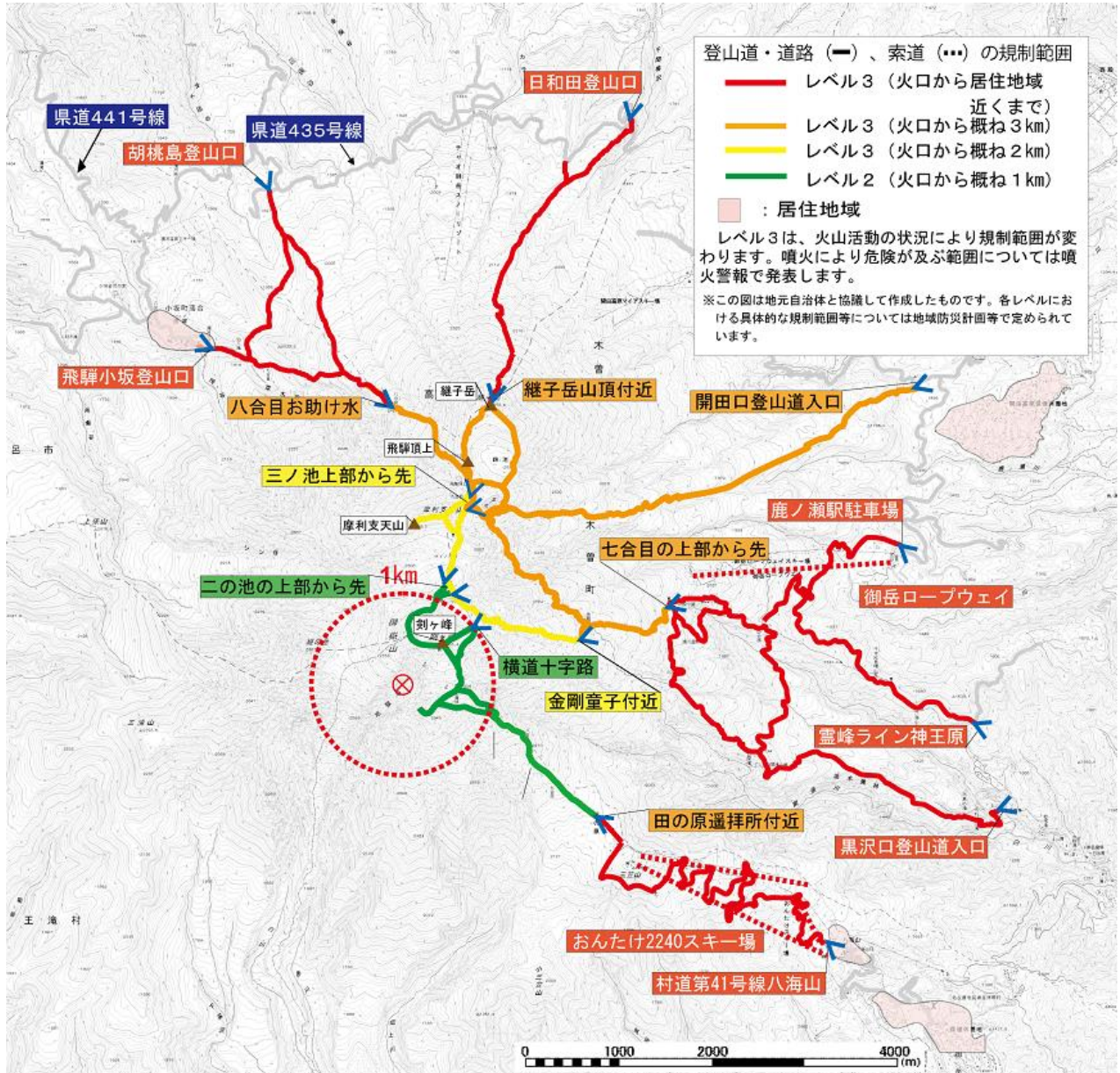


図1 御嶽山 警戒が必要な範囲  
・赤点線が火口から1 kmの範囲

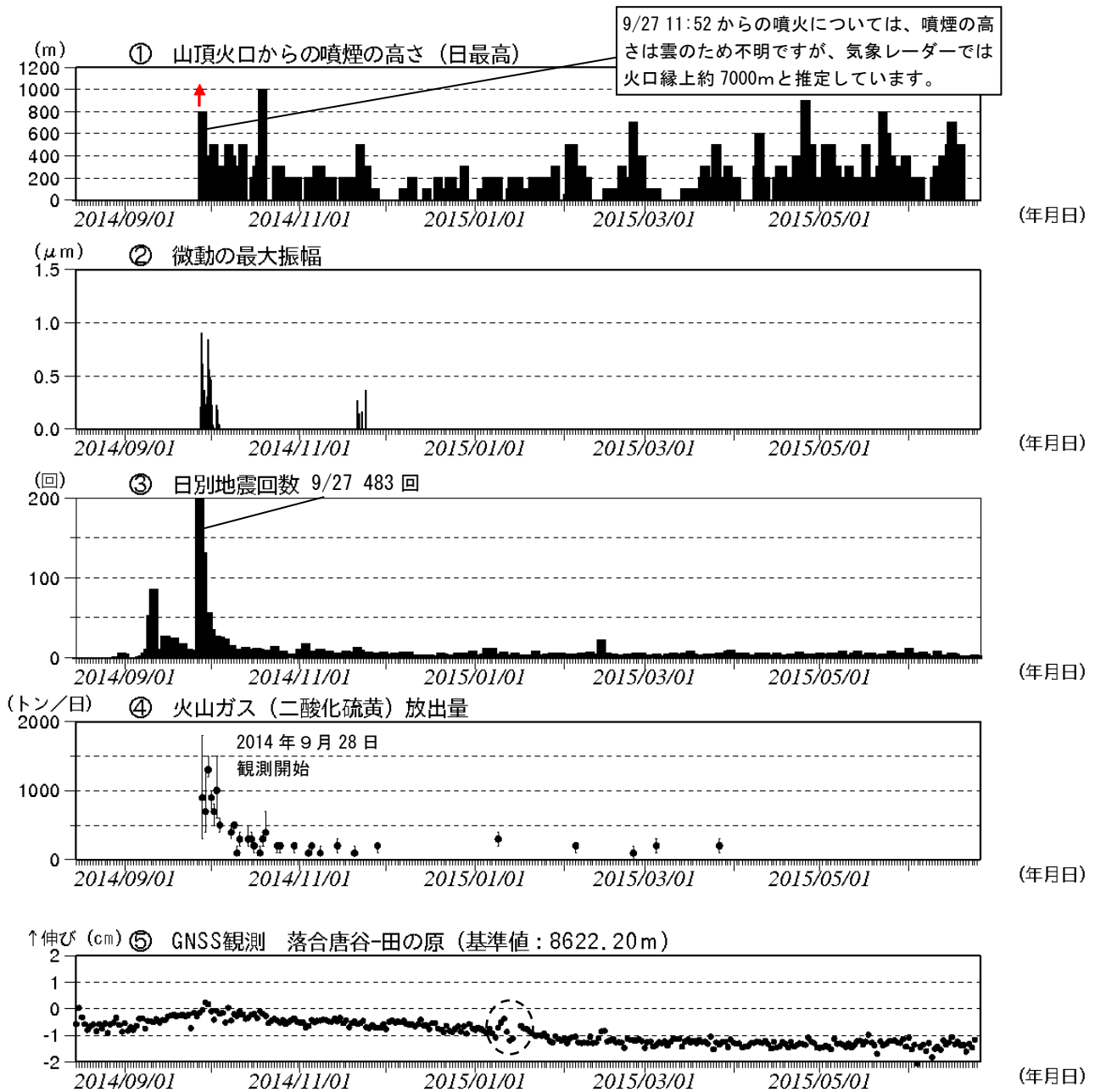


図2 御嶽山 最近の火山活動経過図（2014年8月15日～2015年6月25日）

- ①遠望カメラによる噴煙の高さ 噴煙の高さは日最大値（噴火時以外は定時観測（09時・15時）の値）。赤矢印は噴火発生を示します。また、視界不良時には噴煙の高が表示されていませんが、噴火発生以降は噴煙が連続的に発生しているものと考えられます。
- ⑤図4のGNSS基線⑤に対応した基線長の変化を示します。グラフの空白部分は欠測を示します。点線で囲んだ変化は、火山活動との関係はないと考えられます。

- ・噴煙の高さは火口縁上100～500mですが、上空の風の弱いときには一時的に1,000mを超えることがあります。
- ・火山性地震は2014年11月以降1日当たり数回から十数回とやや少ない状態で経過しています。
- ・火山性微動は2014年12月以降観測されていません。
- ・二酸化硫黄の放出量はやや少ない状態で継続しています。
- ・GNSS連続観測では、2014年10月頃以降、御嶽山を挟む基線でわずかな縮みの傾向がみられます。

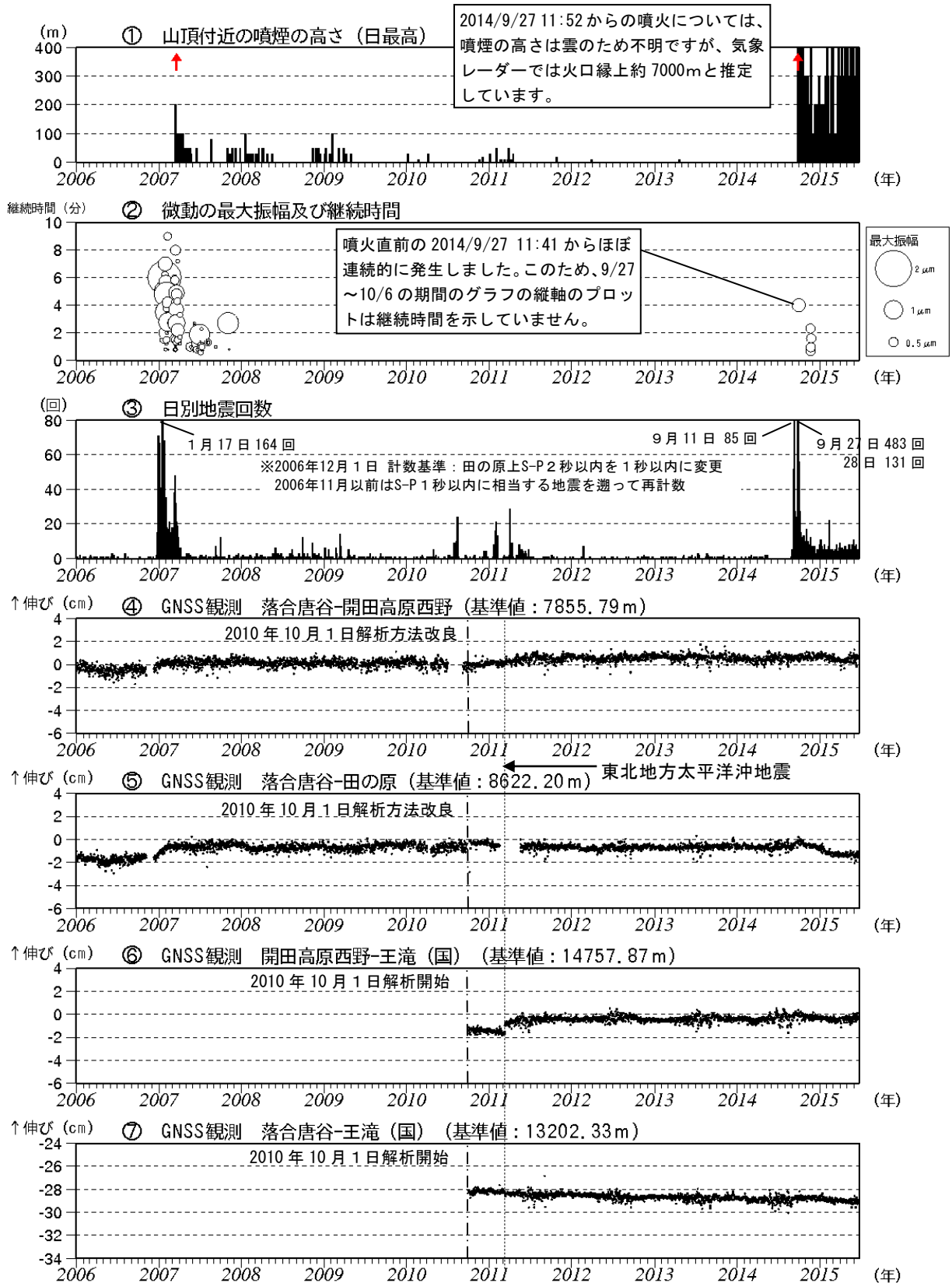


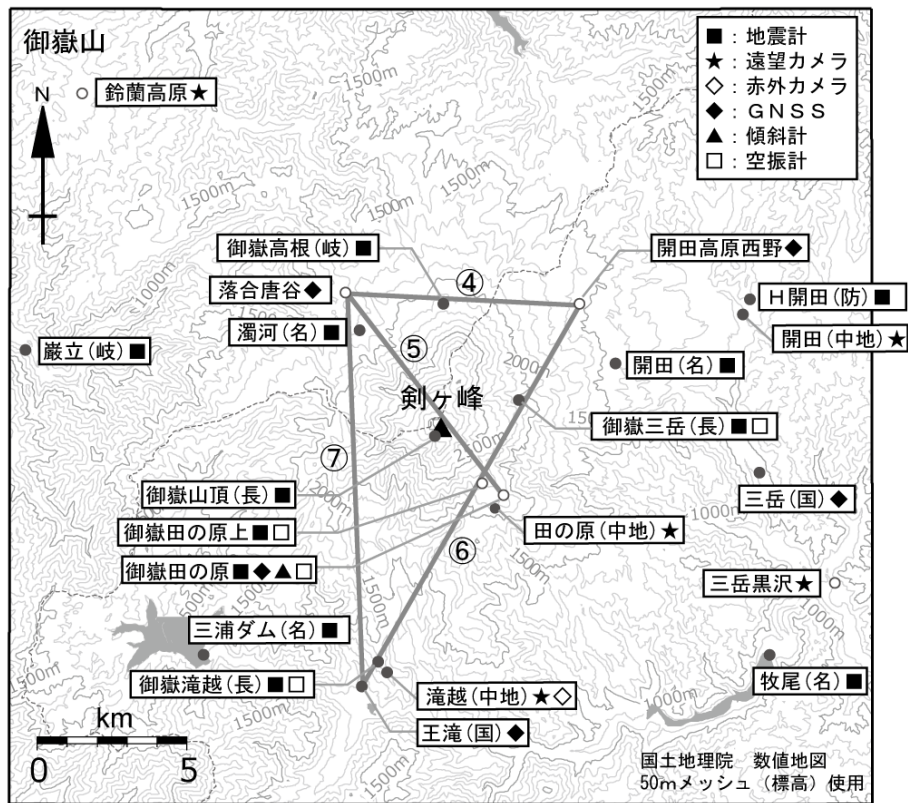
図3 御嶽山 長期間の火山活動経過図 (2006年1月1日~2015年6月25日)

① 遠望カメラによる噴煙の高さ 噴煙の高さは日最大値 (噴火時以外は定時観測 (09時・15時) の値)。赤矢印は噴火開始を示します。

④~⑦ GNSS 連続観測による基線長変化 (国): 国土地理院

⑤の基線で2014年10月頃以降、わずかな縮みの傾向がみられます。

⑥には東北地方太平洋沖地震 (2011年3月11日) に伴うステップ状の変化がみられます。2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。図中④~⑦は図4のGNSS基線④~⑦に対応します。グラフの空白部分は欠測を示します。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(中地) : 中部地方整備局、(防) : 防災科学技術研究所、(名) : 名古屋大学、  
 (長) : 長野県、(岐) : 岐阜県

図 4 御嶽山 観測点配置図

図中の GNSS 基線④～⑦は図 2 の⑤、図 3 の④～⑦に対応しています。  
 なお、御嶽山頂観測点からのデータは現在入っていません。

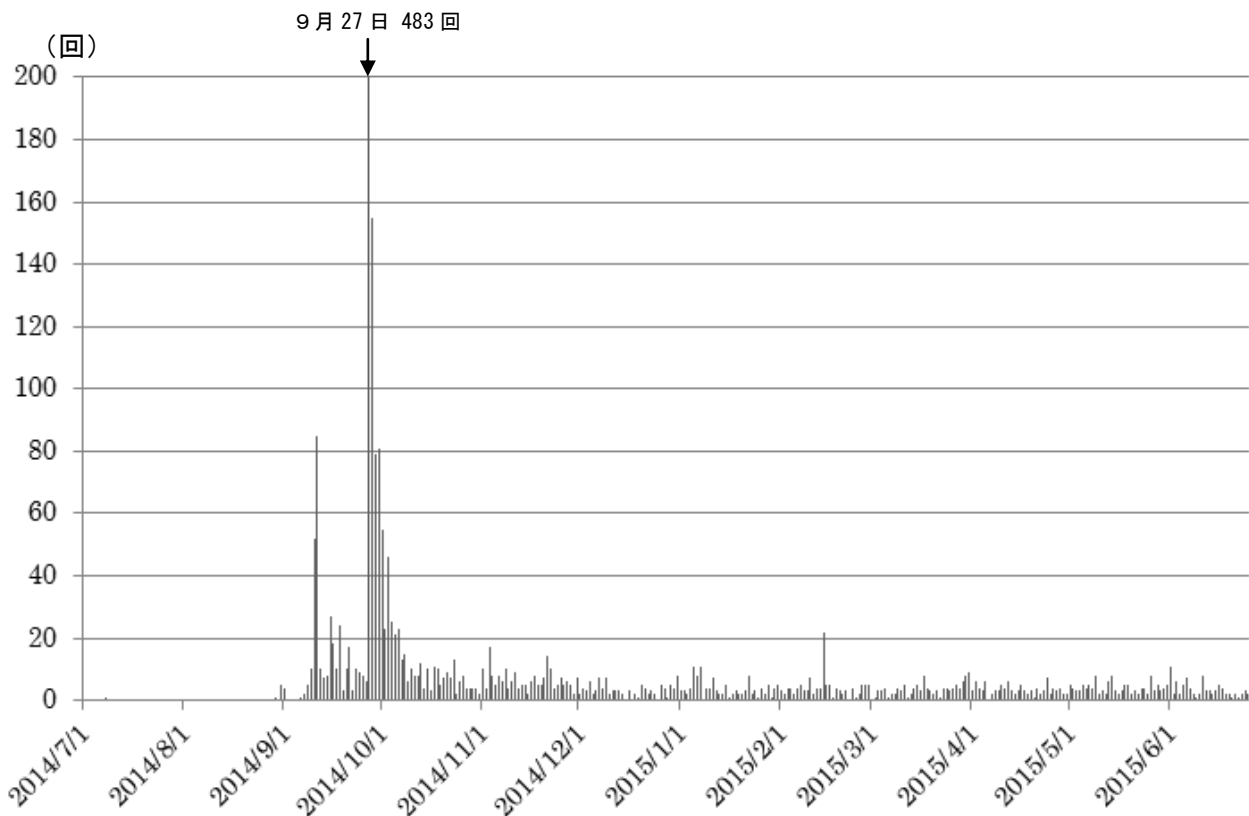


図 5 御嶽山 日別地震回数 (2014 年 7 月 1 日～2015 年 6 月 25 日)

2014 年 11 月以降、1 日当たり数回から十数回とやや少ない状態で経過していますが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていません。